



## 2011 年の調査研究などの利用紹介

2011 年にも多数の研究者が当館に調査研究目的で来館されました。フジツボ化石の共同研究のために野村真一博士（千葉県立天羽高等学校）（8/11～13、ホッピーだより No.323 で紹介済み）が、モササウルス類新規標本の研究とシンポジウムのためにマイケル・カウルドウェル教授（カナダ アルバータ大学）と小西卓哉博士（カナダ 王立ティレル古生物学博物館）（11/29～12/4、ホッピーだより No.326 で紹介済み）が来館されました。

これまでに紹介していない来館者と研究活動について簡単に紹介します。



重田康成 博士（国立科学博物館・研究主幹、写真左）、伊豆倉正隆 氏（札幌市、写真右）、4/29～5/9

アンモナイトが産出している地域の地質調査（写真）と当館資料の調査を行いました。野外での調査や資料の調査の結果、多くの研究成果が得られました。学会発表や論文として発表されたい、紹介していきます。



楠橋直 博士（愛媛大学 助教）、7/18

哺乳類化石を中国で多数採集し、研究されているという経験を活かして、これまでに北海道から発見されていない白亜紀の哺乳類化石の発見・採集に挑戦しました。今回は発見できませんでしたが、哺乳類化石が産出しそうな地層のみかたを教えてくださいました。



佐藤たまき 博士（写真、東京学芸大学 准教授）と田原健太郎 氏（同学部生）、増田進 氏（同学部生）、8/4～7（佐藤・田原・増田）、12/17（増田）

前年に引き続き、当館所蔵のクビナガリュウ化石の観察を行いました。

佐藤先生が、研究成果の一部を 2012 年 1 月の日本古生物学会（群馬例会）で口頭発表されました\*。

\* 佐藤たまき・西村智弘：北海道小平町産ポリコティルス類首長竜の clavicular arch について



<sup>しげのり</sup>  
荻原成騎 博士 (東京大学 助教)、9/3

化学分析から古生物の生態を明らかにする研究を始めました。

過去の生物が作りだした有機物などを化石・岩石から抽出することで研究を進めていきます。



<sup>ともき</sup>  
唐沢與希 氏 (京都大学大学院 修士課程)、9/3 ~ 9/17

アンモナイトが化石になる過程を明らかにする研究のため、野外での地質調査と収蔵資料の観察を行いました。当館資料も用いた研究成果を2012年1月の日本古生物学会(群馬例会)で口頭発表されました\*\*。

\*\* 唐沢與希・前田晴良・野下浩司 : *Hypophylloceras* 属の殻に見られる特異な破損パターン



<sup>よしつぐ</sup>  
小林快次 博士 (北海道大学総合博物館 准教授、写真右)、9/20・11/10

脊椎動物化石と産出した地層についての共同調査を行いました。

(写真左は穂別在住の堀田良幸氏)



京都大学の授業での利用、9/2

理学部・地質学鉱物学教室の地質科学野外巡検II(長期地質巡検)前田晴良<sup>はるよし</sup>准教授、下林典正准教授、学生7名、8/29~9/2の最終日に穂別に寄られました。

当初は野外での地層の観察を予定していましたが、雨天のため、博物館の展示見学と、収蔵庫での資料の観察などを行いました。

### [アクセス]



### 【利用案内】

開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小~高校生 : 100円

大人 300円

団体 / 小~高校生 : 50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

### 【休館日】

2012年2月

6(月) 13(月) 20(月)  
27(月)

2012年3月

5(月) 12(月) 19(月)  
21(水) 26(月)